

シルバーの仕事・安全第一

若林 雄一

私がシルバーの仕事をお世話になって3年になります。

仕事の内容は5月から11月までは草刈りがメインです。多くは公園・水道施設関係の草刈りです。チップソーの刃や紐の刃の刈払機を使いますが、特に紐の刃で作業をする場合、刈り取った草が周囲に飛び散るので、作業服や保護メガネなどを使用して自身の安全に心掛けると共に、周辺へ危害を与えないよう注意しながら作業をしています。作業は2人〜5人くらいで行いますが、事故防止のため



作業開始の前に危険予知ミーティングを行い、事故のないよう心掛けています。

11月から3月までは植木の剪定作業がメインです。植木の剪定作業では、三脚脚立を使って高所で作業をすることが多くなり、危険を伴います。三脚脚立の設置場所の安定性をよく確認し、安全に作業ができるように注意しています。作業員同士が声を掛け合い、仲良く仕事をするのが安全に繋がると思っています。安全に注意し、これからお世話になります。

高齢者施設で児童から学ぶ

広報委員

シルバー人材センターの事務所は、老人福祉センター長生荘の一室にあります。20年春からの感染症の蔓延で閉鎖した期間もあり、お風呂サービスは再開しましたがカラオケは禁止で、静かで寂しい状態です。

そんな中、嬉しい話題がありました。長生荘の受付をしているシルバー会員からの話です。

長生荘の隣にある小学校に通う児童が、施設のトイレを使わせて

欲しいと、ときどき立ち寄りします。

そんなとき子どもたちは、入館するときしつかりあいさつをするだけでなく、用を足してトイレを出る時、トイレ用スリッパを整頓している。良い行動を見て感心し嬉しくなったとのことでした。

話は更に続きます。シルバー会員が「良い行動だね」と褒めると、その習慣は、今は中学校に進級した上級生に教えられ、それを今も守っているとのこと。

良い習慣が子どもから子どもに引き継がれている。高齢者が通う施設で児童から学ぶこともある、という嬉しいお話でした。



「安全最優先で就業してください」

会員が就業中の事故に遭わないように、ケガをしないように。

就業事故「0」はセンターとして最優先で取り組む課題です。

慣れから来る安全作業意識の欠如、加齢に伴う身体機能低下等による事故が発生しています。

会員一人ひとりが、自分だけは大丈夫と過信せず、もう一度安全作業を心掛け、常に周囲に気を配り仕事をしましょう。

